

# 連携支援だより 第4号



年度末になり、卒業シーズンに入りました。

本校に在籍している児童生徒も学年末に向けて、学習のまとめ等、様々な準備を進めております。

さて今年度も3回、特別支援教育総合センターとの共催で病弱専門研修を開催いたしました。多くの方に来ていただくことができました。ありがとうございました。

第3回の研修会では、昭和大学大学院保健医療学研究科准教授 副島 賢和氏をお迎えし「病気の子どもになぜ教育が必要なの？」～院内学級の子どもたちが教えてくれた大切なこと～というタイトルの、実際に院内学級で関わったお子さんとのエピソードを交えながら心優しい副島先生のお人柄が伝わってくる温かな講演会でした。マイクを持たずに情熱的にお話をされる姿には、子どもたちへの想いが現れていました。

今回、講演会の内容をお伝えしたいと思います。

## ○院内学級（病弱虚弱教育特別支援学級）について

2011年に実施に放送された「プロフェッショナル」の映像を編集し、副島先生の勤務の様子を視聴しながら説明されました。副島先生は大学の授業を持ちつつ、今でもかつて勤務をされていた昭和大学附属病院の中にある院内学級に関わっていらっしゃいます。院内学級の名前を「さいかち学級」といい、その院内学級は病院のある地域、東京都の品川区立小学校の病弱教育特別支援学級が入っている形態です。

\*さいかち学級のような大学病院のある地域の小中学校の特別支援学級として教員が配置されている院内学級と、浦舟特別支援学校のように特別支援学校の教員が院内学級に配置されている院内学級があります。横浜市内では、こども医療センターにある県立横浜南養護学校と浦舟特別支援学校が院内学級を設置しています。

院内学級には、本人・保護者が希望し、医師が許可した入院中の子どもたちが通い、ベッドサイドでの学習も行っています。

院内学級の役割は、「子どもたちの発達を保障すること」で、近くの小・中学校から担任の先生が訪れたり、特別支援学校の教員が入ったりして、病棟スタッフの方達とチームとして活動していると説明されました。（浦舟特別支援学校も同様です。）

## ○大切にしている関わり・・・

まずは、子どもの心を解きほぐす事が大切。病気により奪われるもの、痛みや苦しみから感情の喪失や関係性の喪失が起こります。「君がいることは素晴らしい。」病気になった子どもた

ちは自尊感情が失われていることも多く、Doingの前にBeingを、そこにいるだけで素敵なこと、助けてって言って欲しい、失敗したっていい、あなたはあなたのままでいいと、認めることが大事であると話されました。

子どもの起こす行動には理由があり、その心の声を聞くことが大切です。入院して学校を休まなくてはならないと、「元気になったらおいで。今はゆっくり休んでね。」はその言葉が通用する子どももいますが、そうでない子どももいます。今の自分を否定されているようにとられることもあります。

慢性の病気を抱えていたり、障害があったり、何度も退院することで傷ついたり・・・私たちはそのような子ども達に、治療のエネルギー、社会や学校に復帰して生活をしていくためのエネルギーをためる教育を行っています。子どもたちにとって「学ぶことは生きること」、学びが日常を支えている、そして子どもたちはみんなと同じことをしたいと思っているのです。

「前籍校の担任の先生には『心配しているよ。大切に思っているよ。』というメッセージは送ってほしいです。」という副島先生からのメッセージがありました。

また、「感情」に関しての話がありました。子どもは感情を言語化できずに行動化・身体化してしまうことがあるので、教員が代わって言語化をすることが大切であること、そして、「子どもはどんな感情を持っていてもよい、受容（感情を受け止めること）はするが許容（行動を容認すること）はしない。」という言葉はとても印象に残りました。参加された先生方からのアンケートにもその言葉がとても印象深かったと書かれていました。

子どもの教育はチームで関わることが大切で、子どもも含めて困難や課題を取り巻いていき自分の感情を大切にしながら仲間と時間と空間を共有していくことが望ましいという話もありました。

こちらにまとめきれない沢山の温かいお話を、皆が引き込まれるように聴き、あっという間に終了時間となりました。



来年度も引き続き本校に在籍予定の児童生徒の数名おりますが、退院後、前籍校に復学の際には連絡を密に取っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

今年度研修会にご参加いただきありがとうございました。

来年度も研修会を予定しております。連携支援だより等でご案内をしていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

病気などが理由で、市内の病院に入院しているお子さん、登校ができていても病気に対する配慮が必要なお子さんについて、教育相談を受け付けています。

学校からだけでなく保護者からの教育相談も受け付けています。

担当：浦舟特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 荻野 TEL243-2624



\*お手数ですが全職員にご回覧ください。